

# 自立活動だより

平成26年6月発行

6月から抽出指導と定期相談がスタートしました。セクション3では自立活動6区分の中の「コミュニケーション」や「人間関係の形成」に焦点を当て授業を行っています。今回の自立活動だよりでは、コミュニケーション手段の1つである「マカトン法」の話と「マカトン法」を用いたコミュニケーションの授業についていくつか紹介したいと思います。



## ○マカトン法について

授業の事例を紹介する前に、簡単にマカトン法についてお話したいと思います。

マカトン法の定義は「言語・コミュニケーションの指導法」です。マカトン法について話をすると、「手話とどこが違うの?」「マカトンサインの練習を勧められたということは、うちの子は話す練習は無理ということなの?」と聞かれることがたまにあります。しかし実際にはマカトン法に取り組む中でアイコンタクトがとれた、注意力が伸びた、社会性が広がった、発声・発語が増えた等の指導効果があるという調査結果があげられています。

抽出指導では、発声や少しの発語は聞かれるけれども発音が不明瞭な子どもや集団の中では話す人に注意が向きにくい子ども、理解言語をもっと増やしていきたい子ども等にマカトン法を用いたコミュニケーションの学習を行っています。

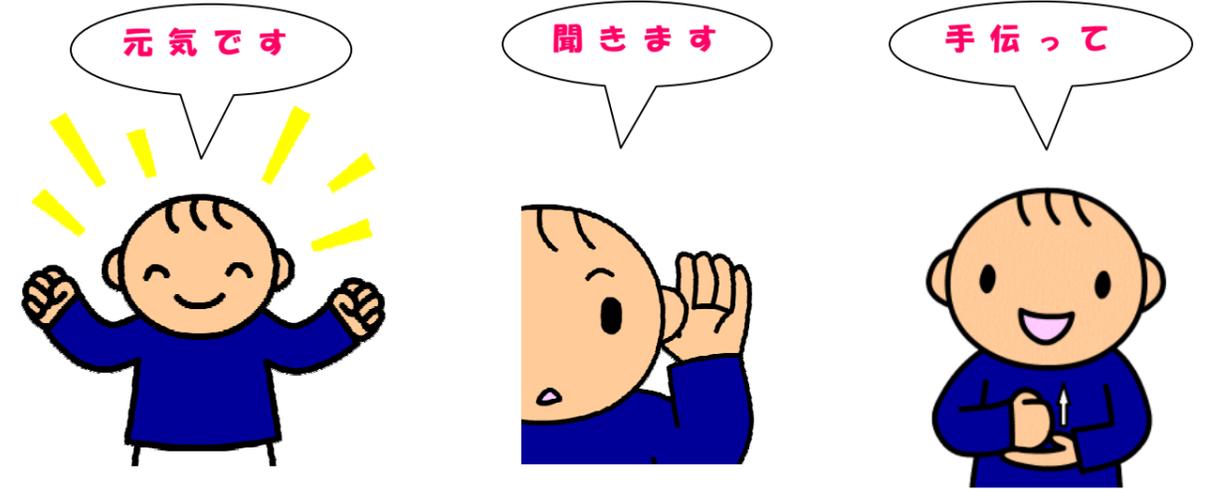
## ○マカトン法を用いたコミュニケーションの学習の一例

①友だちや先生とたくさんお話がしたくて何か言おうとしているのだけど、発音が不明瞭で相手に聞き取ってもらえずに、話すことをあきらめたり怒ったり…話すことに消極的になっている子どもは少なくありません。そのような子どもには相手に伝わる楽しさや自信をつけてもらいたいと考え、今話することができる言葉とマカトンサインを同時に表出する学習を行っています。保護者や担任の先生には抽出指導で学習している内容について、授業の様子を見ていただいたり授業の後でお伝えしたりして、お家や学級でもマカトンサインを使うことで気持ちが通じる経験を積み重ねています。マカトンサインを使ったコミュニケーションの学習と並行し、発音に必要な構音器官（唇や舌等）の動きの練習や子どもの実態に合わせて出しやすい音から発音練習を行い、表出できるサインや言葉を増やしています。



②集中して話が聞きにくい子どもや話をする相手に視線を向けず一方的に話している子どもたちとも、言葉にマカトンサインを合わせて会話する練習を行っています。言葉のみで話しかける時よりも、子どもたちはサインに注目し相手を意識して会話しようという意欲を高めていきます。

③子どもたちの中には手指の巧緻性や、模倣する力等に課題があるために、サインの習得が難しい子どもたちがいます。その子どもたちとはシンボルや絵カード等を使って、自分の要求や気持ちを伝える学習を行っています。



## ○先生達の勉強会

先日校内で抽出指導研修（年3回）の1回目があり、セクション3では「マカトン法」について研修を行いました。（セクション1では「姿勢について」 セクション2では「感覚統合について」）日本マカトン協会が行っているワークショップを修了した教師が中心になり、マカトン法を学びたい先生方と一緒に研修を行いました。子どもたちが抽出指導の場面だけでなく、日常生活の場面でもマカトンサインを使ってコミュニケーションを広げていくことができるように、正しいマカトンサインの練習を行いました。



サインだけでなく、言葉も添えることに気を付けます。

マカトンサインを使って、明日から子どもたちに話しかけてみます。

\*研修会のアンケートより

今回はマカトン法に焦点を絞ってコミュニケーションの学習について書いてきました。子どもたちの心の中には伝えたい、共感したい気持ちがあふれています。子ども達一人ひとりに合った表現方法について、これからも保護者の方々や先生方と一緒に探ってきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

お願いします!

